

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570909416		
法人名	有限会社くおん		
事業所名	グループホームくおん(A棟)		
所在地	秋田県鹿角市八幡平字堰の下108番地		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>春夏秋冬 季節を目で肌で感じ取れる自然豊かな環境にあります。日々ゆったりと一日が過ぎるような雰囲気の中で安心して過ごして頂くよう努めております。</p> <p>・冬が長いので陽が出る日は出来るだけ外で、日光浴、外気浴を行っています。 (目の前の田んぼの様子や作業内容を見て、目で季節を感じる事が出来る。また、外気に触れることで肌でも季節を感じる事が出来る。自然を目にすることで、昔話をしたり会話の糸口になったりしている。)</p> <p>・入居者さんの重度化が進んでいる状況で、入居者さんとそのご家族さんの安心に繋がるように訪問歯科、往診などの外部からのお力添えを頂いている。</p> <p>・今年度は、コロナ禍の中で外部での研修が激減している為、内部研修を毎月計画に沿って行い、職員の資質向上に努めておりますが、資格取得の為、介護福祉士、初任者研修を会社経費で受講して頂いております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム周辺は山に囲まれ、素晴らしい紅葉を観ることが出来る自然豊かな環境にある。研修が年間計画に沿って実施され、身体拘束やプライバシーの保護などについて、日々の支援から意見を出し合い、利用者一人ひとりが安心して過ごせるよう努力されている。職員の資質向上にも前向きに取り組まれ、資格の取得の為の費用を負担するなど、職員の育成についても努力されている。災害時の取り組みについても、オール電化の建物であることから、停電の際、業者から料理に使うガスボンベを設置してもらえ体制が出来ているほか、備蓄品もきちんと確保し管理されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「ゆとり いたわり 思いやり」を内部研修の際、代表から説明を受け実践出来るよう心掛けています。	4月スタッフ会議で理念について、代表から細かな説明があった後、職員間で話し合いが行われ、理念に対する思いを共有し支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2週間に一度、地域の商店から移動販売をしてもらい入居者さん一人ひとりから選んでお金の計算をしてもらっている。地域の美容院、理髪店さんから来訪してもらい髪をカットしてもらっている。 コロナの影響で地域の行事が全て中止となり交流する機会がなくなってしまった。高校生、中学生、保育園児の来訪もなくなってしまいました。唯一散歩の時、地域の方とあいさつを交わし会話をします。 春、ゴミ箱修理に地域の大工さんが無償で修理してくれたり「春の山菜け～昔思い出すべ」と言って山菜を貰う機会があった。(関連があり スペースなく 結合しました)	コロナウイルスの関係で地域の行事が中止になり、地域住民や子供達との交流が出来ない状態であるが、ホーム周辺を散歩の際に地域の方々と挨拶を交わしたり、地域の商店の移動販売が来た際、親身になって対応してくれることで、日常的な会話が生まれ交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	料金改定など様々な協議事項を会議の中で揉んでいる。 推進委員の中でも感染症対策について沢山ご意見を頂戴した(コロナ流行前)。職員の負担軽減の為、玄関で家族に注意喚起する手法を直ぐに取り入れた。	今年度は開催できていないが、会議の資料を委員の方々に送付し、後日電話で意見等を伺っている。ホームの委員会の特徴として、委員のメンバーを固定しないで、警察官やお寺の住職、退居した人の家族等に参加してもらい、外から見たくおんについて意見を貰い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に毎回参加してもらい相談事項など協議している。会議以外にも分からない事があれば直接窓口で相談している。	運営推進会議のメンバーに入ってもらっている外、制度上で不明な点があれば、直接出向いて相談している。書類等の提出の際にも郵送ではなく、直接窓口に行き渡すなど繋がりを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、身体拘束廃止委員会開催を通して職員が勉強する機会を設けている。委員会でヒヤリハット、事故報告書を基に開催した回がありました。圧倒的に車いすの方の転倒事例が多かった。見守り不十分という事で反省が記載されておりましたが、これを踏まえ職員が視界に入り見守りが出来るには？と話し合い職員の近くを居心地が良いと感じてもらう様に、談話や手伝いをしてもらい雰囲気づくりに邁進している。	身体拘束については、日々の支援から検討事例が発生した際に話し合いが行われているほか、内部研修や委員会で勉強する機会を設けるなど、身体拘束のないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍前は、研修会へ参加し日々の申し送り時に情報を伝え職員皆で共有している。また身体拘束廃止委員会を通し職員一人ひとりが学びの機会を得ています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があり知識を得る機会がありました。今年度入居された方が利用しておりますが、入居前から利用されております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ずご家族さん本人から施設見学をしてもらい納得してからの入居スタイルです。契約の締結、解約に関しては施設長が対応しています。料金改定に関しては、説明、同意書を社長が対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は開催出来ていないが、家族会の開催やご家族さんの面会時に意見要望を聞く様にしている。また、毎月の介護計画書に家族さんの意見を記入する欄を設け運営や介護について意見を頂戴出来る様に努めている。投書箱も設置し苦情相談窓口がある事を伝えている。	毎月サービス評価報告書を家族に送り、意見を伺っている。面会に来た際にも意見や要望等を聞くようにしている。利用者からは自分の思いを書いてもらったり、日常の会話から吸い上げ、支援に活かしている。七夕の時にも短冊に思いを書いてもらい参考にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り後のフリートークの際、会議の中で細かい部分についても意見が出しやすい様に意見を問う機会を多く設けて貰っています。職員が使用する使い捨て手袋について、職員の手荒れ予防の為、パウダーなしに変更してもらった。	職員とのフリートークの時間を大切に、気軽に意見を話せる機会を設けている。意見を吸い上げ、センサーの設置や福祉車両の購入のほか、介護用品のマッスルスーツを試してみるなど、職員が働きやすい環境作りに努力されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務士さんから助言を頂きながら環境は整備されている。資格取得には積極的にバックアップしてもらっている。介護福祉士資格、ケアマネ資格取得で昇給があり目指す目標が職員一人ひとりある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍で外部の研修について運営側からアナウンス頂いているが、感染のリスクを考えれば…。しかし、内部研修を計画に沿って進めている。 介護福祉士資格取得の為、実務者研修と新採用した職員の初任者研修は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍により交流が無いのが現状です。コロナ対策については、電話での情報のやり取りが代表者を通し行われています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を重要としております。また、お茶の時間や入浴時、職員と1対1になる時間を大切に、何気ない会話から思いを聞き出し職員間で共有しスピーディーな信頼関係構築に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まで何度もご家族さんへ面会に行ったり来訪してもらったりケアマネが対応してくれている。また、ケアマネの連携を活かし、以前のケアマネから情報を聞くなどしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主婦経験者が多く、台所仕事、洗濯干しなど職員と一緒にいき、同じ時間を共有している。同じ作業をする事で、会話も広がり信頼関係構築の一助となっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族さんから介護計画に目を通してサインを頂く事になっており、出来る限り月に1度は面会に来てもらい今の現状を直接、目で見て頂く様にしている。また、年に2度は、受診にも同行してもらっています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会も自由に出来なくなり馴染みの会合や地域のお祭りも中止となり、一方的な馴染みの場所(自宅や自宅付近、お寺)へドライブで支援している。	年2回、自分が住んでいた家の周辺に出かける機会を設けている。訪問した際、近所の人や民生委員が出て来てくれるなど、馴染みの人との関係が途切れないよう継続した支援が行われている。ほかに神社、お寺、墓等にも出かけている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士と一緒に過ごせる様に、体操や散歩、レク、外気浴を行い孤立はない。また、出身地域が一緒の方同士で会話出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退去となってしまった場合、院内面会規制がない時は、面会に行っている。退去した家族さんから推進会議評議員として、今もお世話になっている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事の都度、職員との会話をヒントに希望、要望を把握する様にしている。また、日常のお茶タイムでの会話から情報を得る。ストレートに「希望は何？」と聞かず、何気ない会話から把握に繋げている。	側に寄り添いながら話しやすい環境を作り、日常会話の中でさり気ない声掛けから、思いを聞いている。聞き取った希望や要望については、一覧にして職員間で共有し、実現に向けた支援が行われている。毎月利用者の思いや意向を目標に掲げ、叶えるようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネをかえして情報を貰い把握に努めている。中には、お子さんと同居しておらず情報が分からず入居してからの会話から情報を得る場合もある。しっかり職員間で共有するように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	作業(台所仕事や洗濯関連)を職員が一緒にいきカンファレンスで検討し記録に残している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を元に介護計画を作成し、ご家族さんから意見を頂戴し時には主治医からアドバイスを貰い、実施→検証を繰り返している。	ユニット会議等で日々の経過記録を元に職員間で話し合いが行われ、介護計画に反映されている。更新時期には家族、主治医からの意見を伺い介護計画が作成されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記と重複するが、特に変化がある時はカンファレンスしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店から移動販売に来てもらい入居者が買い物出来る機会をつくってもらっている。また、散髪も地元の理容所さんから行ってもらっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、主治医はそのままでお世話になっています。歯科に関しては、多職種連携会議でのつながりを活かし歯科Drへ車イスでの受診困難である現状を相談したところ訪問診療でバックアップして頂いており、困りごとにも相談できる関係を構築しています。薬局については、配達時に直接顔を合わせる事が多々あり薬について相談したり薬変更で気を付ける事などアドバイス頂いている。	入居前のかかりつけ医を継続し受診している。ホームで付き添いを行っているが、なかなか面会に来れない家族から年2回お盆と正月に通院に同行してもらい、主治医から現在の健康状態の説明を受けている。また、多職種連携会議に参加し、専門職の方々から助言を受けるなど、専門機関との連携が図られている。歯科医や薬局についても、訪問診療や薬の相談等で関係が築かれている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護婦不在の為、必ず受診前にDrや看護婦さんに伝える現状を職員同士で話し合います。診察に入る前に看護婦さんと話をしております。特に精神科診察はDrへ伝えるタイミングが難しく紙に書いてDrや看護婦さんへ手渡し対応している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	全般的にケアマネが対応している。入居者の状態については、ケアマネから逐一報告を貰っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しご家族さんからご理解を頂いております。また、緊急時の受診にご家族さんから立ち会って頂いたり、定期受診時、立ち会って頂いたご家族さんへ主治医から重度化、終末期に向けて対応の方向性を話し合ってもらっています。	入居の際の説明で、胃瘻や痰吸引等医療的ケアが必要な状況になった場合は、他施設に移行させてもらうことを伝え同意を得ている。家族が通院で付き添った際、主治医から家族に終末期における対応について、話し合い合ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参考に避難訓練と合わせ応急手当を行った。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行っています。推進会議でも話題に出したが、水害についてはハザードマップから考えれば下手に動かない方が良い。むしろ地域の高齢者の避難場所として開放出来る様に。火災以外の災害時は、高齢地域の現状を考えれば、地域の人手はくおんに回すことが出来ない。逆に福祉車両を貸して欲しい。と意見をいただいた。	年2回、水害、台風等の想定で防災訓練を実施している。過去の運営推進会議で災害対策について話題を提供し、地域の協力体制等について助言を貰っている。地域の福祉避難場所に指定されており、地域住民の方々の避難場所としての受け入れ体制が構築されている。、非常時の食料品等の備蓄については、色々な場面を想定して準備され、避難訓練では、地域の警察署員も参加して行われている。	運営会議等で地域住民の方々との話し合いが行われ、協力体制が構築されているなど前向きに取り組まれているが、避難方法などを再確認する意味で、消防署へ立ち会いを依頼し、助言を貰いながら安全に避難できる体制作りに期待します。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を行い改めて気付きを得る事が出来ました。職員の思いと入居者さんの思いでは相違があり誤解を招かない様に、声のトーンや話す時の目線の高さに注意しています。	内部研修をとおして、職員の意識向上に努めている。トイレに誘導する際の声かけや、トイレ内での転倒を防止するための見守りの時には、可能な限りプライバシーに配慮した支援が行われている。ホームの車についても、社名が入った車を拒む利用者の要望から社名を入れない車両を準備するなど、個人の思いに配慮した取り組みが行われている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動販売来訪時、自分が食べたい物を選んで頂いております。また、日常の会話の中で希望を口に出来るような雰囲気づくりを心掛けております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	価値観や生活スタイルを出来る限り受け入れているが、緊急受診など突発的な出来事があれば希望通りの生活を支援出来るか疑問な時があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ事が出来る方は一人で選んで頂いているが、出来ない方には季節に合った服の選択肢を2~3組用意し自分で選択出来るように努めています。以前は、服屋さんから訪問販売してもらい自分の目で見て購入してもらった。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意とする方から片付けを職員と一緒にやっている。季節や行事を反映したメニューになっており食事からも季節を感じる事ができる。また、食べながら職員は会話の中で説明し会話を膨らませている。	利用者の重度化が進んでおり、利用者への支援に重点を置いていることから、カロリー計算された冷凍介護食を提供している。季節感を感じてもらえるよう敬老の日、お彼岸等の行事のほか、ウナギ、きりたんぼ、ダマコなどの季節料理を提供している。利用者からは、テーブル拭きなどを手伝って貰っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されたものを提供しております。水分は主治医から水分量を指示してもらいました。1日全ての食事、水分の摂取量を記録に残し月初めに体重測定し特変があれば、主治医へ報告し助言を頂いております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれ対応や声掛け介助は違いますが、毎食後に必ず行っています。夜間は入れ歯を外してもらい洗浄しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度5の方でも、日中は職員2人介助でトイレ誘導しトイレで排泄してもらっています。全員記録に残し、時間で誘導し失敗しない様に対応している。	排泄記録を基に定時排泄で対応していて、可能な限りトイレで排泄してもらうよう、介護度の高い利用者でも、2名の職員が支援にあたり対応している。ケースや時間帯によっては、ポータブルトイレを活用している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取の声掛け、午前、午後の体操、散歩をして体を動かしてもらい入浴時など腹部マッサージするなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調確認してから入浴に繋げている。拒否がある場合は職員を変える、時間をおいてから声掛けしている。入浴後は、水分を摂ってもらっている。	重度化が進んでいることから、安全に入浴して貰うため、複数の職員で支援している。最低でも週2回入浴して貰うようにしている。入浴を拒む利用者もあり、ケースに応じていろいろ工夫しながら対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は運動を中心に活動してもらえる様に心掛けている。また、話を傾聴し安心して過ごせる様に努め夜間の安眠に繋げている。その人に合った睡眠時間の確保に努めています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を必ず確認し職員間で話し合っています。些細な分からない事は薬剤師や主治医に相談し不安がない様にしています。また、飲み忘れや誤薬が無い様にチェック表を用い薬を一包化してもらい日付を入れ対応しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は外に出て体操したり音楽を聴いたり散歩したり外の景色を眺め季節を体で感じてもらっています。家の近くまでドライブに出掛けたり初詣やお墓参りに外出していましたが、今年はコロナ禍で回数が減っている。 その日その日で「あいさつ当番」があり皆が役割があります。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で色々制限がある中で以前のような支援が出来ていないのが現状ですが、車でのドライブで家庭訪問してみたり花を見に出掛けたり主に車での外出支援でしか対応できていません。	コロナの関係で外出の機会が少ないが、ホーム周辺を散歩しているときに、地域の方々への挨拶をとおして交流を図っている。車で花を観に行ったり、「自分の家を見たい」「お墓に行ってみたい」等の希望があった際には、可能な限り対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている方もおりますが、ご家族さんからの預かり金を管理させてもらっている方もおります。 近所の移動販売来訪時、預かり金を手渡し、自分で選び購入してもらっています。また、商店の方からご協力してもらい一人ひとりがゆっくり時間を掛け支払金額、お釣りの計算が出来る様に対応してもらっています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、ご家族さんからの電話は受話器を渡し話をしてもらっています。電話を掛けたいが掛け方が分からない方へは手助けをさせてもらっている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行っていますが、トイレなどは汚れている都度、掃除している。 リビングから中庭が見える作りになっており、季節で色んな花が咲き季節を感じる事ができる。また、雨、雪が降った時も目に訴える事が出来ると思います。	リビングの天井が高く古民家をイメージした造りになっていて、小上がりの畳のスペースがある。リビングから見える中庭には、季節感を感じ取ることが出来る草木が植えられているほか、室内にも花が飾られ、昔の家具も置かれていて、リビングで過ごしている利用者の寛げる空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に安心できる固定場所がある様に思います。そういった場所で気の合う方と談話したり一緒にレクやおやつを食べたり思い思いに過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時出来るだけ使い慣れたものを持って入居するようお願いしておりますが、完璧ではない様に思います。 私物の洗濯物を共有スペースには干さず居室へ干し安心に繋がっている方もおります。また、夜間トイレが心配な方にはPトイレを設置し安心に繋がっている。	居室には、位牌や写真、刺し子などのほか家族と一緒に写した写真で作ったカレンダー等が飾られている。安心して過ごして貰うため、個人の状況に合わせ、ポータブルトイレを置いたり、洗濯物を自分の部屋に干すなど、希望に沿った支援が行われている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLに合わせ出来る事はお手伝いしてもらっています。		